

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3670101611		
法人名	医療法人 青志会		
事業所名	ハートインライフ住吉		
所在地	徳島県徳島市住吉2丁目9-8		
自己評価作成日	平成26年12月1日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 徳島県社会福祉協議会		
所在地	徳島県徳島市中昭和町1丁目2番地 県立総合福祉センター3階		
訪問調査日	平成27年1月29日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者様のご要望やご意向に耳を傾け、できる限り実現できるように日々努めています。日々の生活の中に笑い声が溢れる雰囲気作りを大切に、家庭的な環境の中、生き活きと過ごしていただけるよう支援する事を心がけ、職員は居心地が良く安心して生活ができる場を提供できるように今後も実践していきたいと考えています。また利用者様が意志疎通が困難になったり、寝たきりになっていく中でも、いつまでもグループホームの生活が継続できるように職員の技術向上にも努めています。医療・介護・ご家族との連携を図り、最期まで寄り添える看取りの体制を整えています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は閑静な住宅街の一画に位置している。同一法人の運営する他サービス事業所の利用者との交流を行っている。近隣の保育所の子どもの声が聞こえる環境にあり、利用者職員は複数世代の家庭的な雰囲気の行き交う環境のなかで暮らしている。職員は、利用者を人生の先輩として敬いつつ、居心地良く安心して暮らしてもらうための支援を継続的に行っている。重度化傾向にあるなかにあっても、将来的に最良の支援を行い続けるため、職員一人ひとりの介護力の向上を図りつつ、利用者本位のケアを目指した気付きやリスクコントロールのできる職員の育成に向けて取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			ユニット1 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の理念とは別に、「手と手のぬくもり溢れる笑顔」を掲げている。管理者、職員は常に念頭におき、挨拶、笑顔を忘れずに日々の業務に携わっている。	開設時に全職員で話しあって理念を作成し、目につきやす場所に掲示している。毎日のミーティング時に理念を確認し合っている。利用者一人ひとりの思いに添った支援に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣住人の方への挨拶を忘れないようにしている。新年の挨拶や、暑中伺いを行っている。畑に訪れる地域の方や保育園との交流を図るようにしている。運営推進会議に参加して頂き、ご意見を頂いている。	事業所では、利用者と職員で地域の行事へ参加している。また、日頃から散歩や買い物に出かけ、住民と挨拶を交わしている。隣接する保育所との交流や友人等の来訪もある。また、認知症ケアの専門性を活かした啓発活動を行ったり、地域住民の相談に応じたりしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	見学者をいつでも受け入れ、グループホームをより理解していただけるように説明させて頂いている。また、運営推進会議の中で、日常の生活の様子をお伝えし、認知症の理解や支援の方法を説明している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	委員の皆様よりご意見を頂き、改善に向けてのアドバイスを頂く事ができた。ご家族のお話しをお聞きすることができ、今後の取り組みの力となった。	年6回、運営推進会議を開催している。事業所からは、現状報告を行ったり、スライドで行事報告や評価項目に対する取り組みについて報告したりしている。また、委員から出された提案等は、全職員で検討したうえで運営面に反映するよう努めている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	代表者、管理者が月2回以上、徳島市役所、海陽町役場を訪問し、適時指導や情報提供を受けている。	職員は、定期的に市担当窓口を訪問し、各種書類等を提出している。その際、事業所の現状を伝えたり、課題解決に向けた相談をしたりしている。また、市担当者から情報提供を受けるなどして、協働関係の構築に努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束が及ぼす影響や人権について職員研修を実施し、周知している。また、身体拘束をしないようにするにはどうすれば良いかを常に考えてケアを行っている。同意書をお願いしたケースが1件あったが、見守りでケアできた。	入居時の段階で、本人や家族と居室の環境面について話しあううえで安全確保に取り組んでいる。全職員で身体拘束をしないケアに取り組んでいる。また、身体拘束が及ぼす影響や人権等に関する職員研修を計画的に実施している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止についてコンプライアンスルールを詰所に掲示している。職員が常に意識し、言葉使いや対応に十分配慮できるようミーティングで話し合いをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			ユニット1 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	県社協・地域包括支援センター等の研修に参加出来るようにしている。詰所にパンフレットを置きいつでも相談・支援できるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書の説明については、時間を設け十分にご家族に説明し納得していただけるように対応している。改定時には、書面で説明し同意をえるようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご意見箱を設置したり、ご家族が来設時にはお話を伺うようにしている。ご意見やご要望があれば、日々の申し送り等で職員に周知し解決できるようにしている。	職員は、日頃の利用者との関わりのなかで、利用者の意向や要望等を把握するよう努めている。家族の来訪時に意見や要望を聞くよう努めている。遠方の家族には、電話や手紙でやり取りするなどの工夫を行っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は毎日の申し送りの中で職員が意見や要望が提案できるようにしている。また、個々に意見を聞くようにし、考えや提案がないか働きかけている。運営者と管理者は頻りに連絡をとり、情報共有している。	管理者は、職員の気付きや提案を大切に捉え、個別に話し合う機会を設けている。代表者も頻りに事業所を訪れており、職員の提案を聞くようにしている。職員の意見や提案は、速やかに運営面に反映するようしており、働く意欲の向上へと繋げている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は職員に対し、「ありがとう」「がんばった」「元気にやっていますか」と感謝や激励の言葉を常にかけて、職員を認め、向上心を持てるように努めている。また、心身の変化にも留意し相談に応じている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	認知症実践者研修、介護職員による痰吸引研修、リーダー研修等を順次受講できるようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内の他部門との職員相互に交流、研修の機会を設けている。他グループホームとの情報交換を行っている。できる限りネットワークの機会ができるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			ユニット1 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人が職員に対し安心感を持って頂けるように心がけ、ご本人だけでなく、ご家族からも、聴き取りを行い希望や要望をできる限り実現できるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所時、相談時適時にお話を良くお聴きし、ご家族の要望や希望に沿えるよう、また、不安な事が解決できるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初回の相談時に状況をお聞きしたうえで対応している。満床で対応できない場合は他のサービスの相談を行う事もある。また、認知症における対応についてもアドバイスするように心がけている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様ひとり一人の方と向き合い、意向や思いに寄り添えるよう努め、残された残存機能が発揮できるようにしている。常に感謝の言葉を表し気持ちを伝えるようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者の日常生活について喜ばしい事、困ったこと等を常にお知らせできるように努め、ともに相談しながら一緒に支援して頂けるように心がけている。遠方のご家族には電話やお手紙でのやり取りも行っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	外出の際には自宅周辺に立ち寄り、昔の事をお聞きして少しでも記憶にとどめていただけるようにしている。隣接のデイサービスに知人が利用する時には出向いていったりして交流を図っている。	事業所では、併設の他サービス事業所に通う利用者との交流を支援したり、散歩時に自宅に立ち寄りしてもらっている。家族との墓参りや理容室への外出も支援している。必要に応じて外出時の準備等も支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食事の席順や外出時に楽しく会話が弾むように心がけている。家事やレクリエーションでの場を通して馴染みや関わりが持てるように働きかけ、支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			ユニット1 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院、退去された方には、その後の経過をお聞きしたり、面会に出向いたり、お手紙を差し上げたりしている。		
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	常に利用者様の立場にたつて、希望や要望をお聞きしている。また、判断に困る時、ご家族に相談したり、最善の方法は何か検討している。	事業所では担当制を設けており、日頃から利用者が希望等を出しやすいような体制作りと関わり方に努めている。意思の表出が困難な利用者には、選択肢を示して選んでもらうなどし、利用者一人ひとりにとってのより良い暮らしの実現に向け支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	主治医、ケアマネ、他のサービス利用時等関係機関との連携を図り、情報を提供していただけるように働きかけている。ご家族にも、入居時のみならず、随時生活歴等についてお聞きするようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員はひとり一人の生活パターンについて把握するよう努めている。心身状態の変化について気づきがあった時は随時報告、職員全員が周知できるように連絡したり、介護記録に残すようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画は一人の職員で考えるのではなく、利用者、ご家族、主治医、等の意見を考慮し職員全体で意見を出し合い作成している。	担当者が中心となって、関係者と全職員の気付きや意見を踏まえた介護計画を作成している。利用者のより良い暮らしの実現に向け、モニタリングを繰り返し行っている。また、心身状態の変化に応じて、そのつど介護計画を見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアの実践を毎日記録し、心身の状況を個別に記録している。日々、情報交換、共有を行っている。また、毎月、職員により振り返りを行い、介護計画に結びつけている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者の心身の状況に応じ、かかりつけ医を受診したり、往診していただいたりしている。また、職員が散髪させていただいたり、併設のデイサービスのハード(マッサージ機)を使用する事もある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			ユニット1 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の婦人会の方、市内の演奏家やボランティアのご協力を頂いている。何より、ご家族との繋がりを大切にするように努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者様やご家族の意向を踏まえ、かかりつけ医への受診を継続している。	利用者や家族の希望するかかりつけ医の受診を支援している。職員が同行を支援することが多いが、受診後には家族へ情報を提供するようにしている。専門医の受診時には、家族にも付き添ってもらっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員に相談しながら、日々のケアや健康管理に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には同行し、身体状況の報告や服薬状況の連絡、荷物の運搬を支援している。入院中は定期的に訪問し様子をお聞きしている。また、退院に向けて医療機関との連携を図り、受け入れ体制を整えるように努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に書面にて意向をお聞きするようになっているが、随時状況に応じて利用者様、ご家族、医師との話し合いの場を持ち、何ができるか検討している。方針は職員全員が周知情報がわかるように記録に残すようにしている。	入居時の段階で、重度化した場合や終末期の対応について書面で確認してもらっている。利用者の状態変化に応じて関係者間で情報を共有し、チームで支援している。管理者が看護職であることもあり、積極的に終末期の支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	医師や消防署員より知識や技術を学ぶ機会を設けている。個別に予測できる事態については医師やご家族と話し合いを持つようになっている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時の避難訓練を定期的に行っている。津波避難支援マップを新しく職員全員が見えるように張り出している。	年2回、消防署の協力を得たうえで、防火・避難訓練を実施している。管理者が中心となって危機管理講習に参加したり、災害対策マニュアルを作成したりしている。しかし、近隣との協力体制の構築や災害時用の備蓄品を十分に整備するまでに至っていない。	運営推進会議等の機会に防災について話し合っているが、今後は、事業所の行う避難訓練に、運営推進会議委員や近隣住民の参加を得ることができるよう呼びかけられたい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			ユニット1 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉かけには常に注意している。記録の際にも敬う気持ちをもって記載している。会議等の場においても、尊敬の念をもって会話している。	事業所では、つねに利用者を年長者として敬うよう留意している。入浴やトイレ、洗濯、掃除等の支援が必要なときにも利用者の気持ちを第一に考え、自己決定しやすい言葉かけやさりげないケアを心がけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	能力に合わせた言葉かけや説明を行い、納得した上で行動できるように支援している。強制する事なく、待つ事も大切にしよう働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々のレクリエーションにおいても、強制はせず、個々の生活ペースを重視している。食事時間の配慮や気分転換の散歩や外出にも留意している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	希望や要望に沿って、買い物に同行したり、代行したり、お化粧品を手伝ったり、散髪をしたり対応している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	日々の準備や肩付け、簡単な調理と一緒にやっている。週1回の食事作りでは、献立を皆で考え、栄養バランス、季節感を考慮したメニューづくりに努めている。買い物、調理にも協力して頂いている。	毎週木曜日には、利用者と職員で協力あって夕食を作っている。皆で献立を考えたり、買い物や調理等の役割分担を行ったりして全員で取り組んでいる。菜園で育てた野菜を食材に活用している。職員はさり気ない食事介助に努めつつ、利用者一人ひとりが食事を楽しむことができるよう支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量は毎回記録し、体重測定を月1回は実施している。食事がすすまない時には補食の提供も行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の歯磨き、口腔ケアを実施している。義歯の洗浄にも留意している。歯ブラシ、スポンジ、等を使用し定期的に交換している。口腔内痰の吸引も実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			ユニット1 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	尿意の訴えが困難な方でも定期的にトイレに座って頂けるよう支援している。気持ちよく排泄し、清潔保持できるよう留意している。	利用者一人ひとりの排泄パターンの把握に努めている。利用者がトイレで気持ちよく排泄することができるよう、自尊心に配慮しつつ支援している。夜間には、身体能力に応じてポータブルトイレを活用するなどしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	十分な水分摂取や牛乳の摂取をすすめたり、体操、腹部マッサージ等を行っている。排便状況を記録し、便秘がちな時には医師に相談している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	毎日入浴できるようにしている。個々のペースやタイミングに合わせてお誘いするようにしている。	利用者の希望に応じた入浴を支援している。職員は、言葉かけやタイミングを工夫するなどして、週2～3回の入浴を支援し、清潔の保持に努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	消灯時間は設けているが、それぞれの時間を尊重している。眠れない時には声をかけたり、飲み物をお出ししたりして見守っている。昼間でも、休息をとって頂いたり体調にあわせて支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方された内服薬等の内容を把握し、正しく服薬できるように支援している。内服薬はその都度服薬確認をし、誤薬がないように注意している。体調に変化に応じて医師に報告し確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	それぞれの居場所ができるよう、能力にあわせた役割を持って頂くように支援している。洗濯をたたく、掃除をする、鶴を折って作品をつくる等、得意な事を継続して支援している。散歩や買い物、ドライブで気分転換が図れるようにしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	阿波踊り見物やドライブ、買い物にでかけている。また、家族とお墓まいりや食事等に出かけられている。スムーズにでかけられるよう身支度や準備等のお手伝い、車いすの貸し出しを行い支援している。	天気の良い日には、ウッドデッキでの日光浴や近隣への散歩を楽しんでもらっている。利用者の希望に応じて買い物や季節の花見、ドライブなどの外出も支援している。家族とともに食事や墓参りへ出かける方もおり、職員は身支度などの支援を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			ユニット1 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	能力により、ご家族との話し合いを行った上で、ご自身でお金を所持して頂く場合がある。外出の際には支払いがご自身で出来るように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	詰所の電話を使用して頂いている。また、手紙を書くことができるように声かけを行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	フロアや廊下に花を活けたり、利用者様の作品を展示したりして、明るい雰囲気作りに努めている。テレビの音量や温度管理にも留意し細目に確認している。照明のみならず、採光にも配慮し眩しくないようにしている。	共用空間の壁面には、利用者の作品を掲示している。また、ソファで編み物を楽しんでいる利用者もおり、ゆったりと過ごすことのできる環境となっている。事業所内の至るところに季節の花々を飾っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者様がそれぞれに落ち着いて過ごせるよう、座る場所や周辺環境を整え、机やいすの配置を工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	できる限り、使い慣れた物を持ってきて頂くようにしている。好みや生活にあわせて、居室内の配置も相談している。また、身体状況に合わせて随時模様替えをそたり、環境整備に努めている。	利用者一人ひとりの使い慣れた家具や馴染みの品物を居室に持ち込んでもらっている。ベッドを利用する方や畳に布団敷きの方など、本人の身体機能や好みに応じた居室作りを支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	段差のない構造であり、随所に手すりを設置している。心身の状態に合わせてベッドや家具を移動したり、リモコンの置き場所を工夫したり、安全で自立した生活が送れるように心がけている。		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			ユニット2 実践状況	実践状況	実践状況
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の理念とは別に、「手と手のぬくもり溢れる笑顔」を掲げている。管理者、職員は常に念頭におき、挨拶、笑顔を忘れずに日々の業務に携わっている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣住人の方への挨拶を忘れないようにしている。新年の挨拶や、暑中伺いを行っている。畑を訪れる地域の方や保育園との交流を図るようにしている。運営推進会議に参加して頂き、ご意見を頂いている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	見学者をいつでも受け入れ、グループホームをより理解していただけるように説明させて頂いている。また、運営推進会議の中で、日常生活の様子をお伝えし、認知症の理解や支援の方法を説明している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	委員の皆様よりご意見を頂き、改善に向けてのアドバイスを頂く事ができた。ご家族のお話しをお聞きすることができ、今後の取り組みの力となった。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	代表者、管理者が月2回以上、徳島市役所、海陽町役場を訪問し、適時指導や情報提供を受けている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束が及ぼす影響や人権について職員研修を実施し、周知している。また、身体拘束をしないようにするにはどうすれば良いかを常に考えてケアを行っている。ご利用者やご家族にも、入居時や適時に説明や相談をしている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止についてコンプライアンスルールを詰所に掲示している。職員が常に意識し、言葉使いや対応に十分配慮できるようミーティングで話し合いをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			ユニット2 実践状況	実践状況	実践状況
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	県社協・地域包括支援センター等の研修に参加出来るようにしている。詰所にパンフレットを置きいつでも相談・支援できるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書の説明については、時間を設け十分にご家族に説明し納得していただけるように対応している。改定時には、書面で説明し同意をえるようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご意見箱を設置したり、ご家族が来設時にはお話を聞きするようになっている。ご意見やご要望があれば、日々の申し送り等で職員に周知し解決できるようにしている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は毎日の申し送りの中で職員が意見や要望が提案できるようにしている。また、個々に意見を聞くようにし、考えや提案がないか働きかけている。運営者と管理者は頻りに連絡をとり、情報共有している。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は職員に対し、「ありがとう」「がんばった」「元気にやっていますか」と感謝や激励の言葉を常につけ、職員を認め、向上心を持ってよう努めている。また、心身の変化にも留意し相談に応じている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	認知症実践者研修、介護職員による痰吸引研修、リーダー研修等を順次受講できるようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内の他部門との職員相互に交流、研修の機会を設けている。他グループホームとの情報交換を行っている。できる限りネットワークの機会ができるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			ユニット2 実践状況	実践状況	実践状況
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人が職員に対し安心感を持って頂けるように心がけ、ご本人だけでなく、ご家族からも、聴き取りを行い希望や要望をできる限り実現できるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所時、相談時適時にお話しを良くお聴きし、ご家族の要望や希望に沿えるよう、また、不安な事が解決できるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初回の相談時に状況をお聞きしたうえで対応している。満床で対応できない場合は他のサービスの相談を行う事もある。また、認知症における対応についてもアドバイスするように心がけている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様ひとり一人の方と向き合い、意向や思いに寄り添えるよう努め、残された残存機能が発揮できるようにしている。常に感謝の言葉を表し気持ちを伝えるようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者の日常生活について喜ばしい事、困ったこと等を常にお知らせできるように努め、ともに相談しながら一緒に支援して頂けるように心がけている。遠方のご家族には電話やお手紙でのやり取りも行っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	外出の際には自宅周辺に立ち寄り、昔の事をお聞きして少しでも記憶にとどめていただけるようにしている。隣接のデイサービスに知人が利用する時には出向いていたりして交流を図っている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食事の席順に配慮し円滑に食事ができるように支援している。家事やレクリエーションでの場を通して馴染みや関わりが持てるように働きかけ、支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			ユニット2 実践状況	実践状況	実践状況
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院、退去された方には、その後の経過をお聞きしたり、面会に出向いたり、お手紙を差し上げたりしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	常に利用者様の立場にたって、希望や要望をお聞きしている。また、判断に困る時、ご家族に相談したり、最善の方法は何か検討している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	主治医、ケアマネ、他のサービス利用時等関係機関との連携を図り、情報を提供していただけるように働きかけている。ご家族にも、入居時のみならず、随時生活歴等についてお聞きするようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員はひとり一人の生活パターンについて把握するよう努めている。心身状態の変化について気づきがあった時は随時報告、職員全員が周知できるように連絡したり、介護記録に残すようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画は一人の職員で考えるのではなく、利用者、ご家族、主治医、等の意見を考慮し職員全体で意見を出し合い作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアの実践を毎日記録し、心身の状況を個別に記録している。日々、情報交換、共有を行っている。また、毎月、職員により振り返りを行い、介護計画に結びつけている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者の心身の状況に応じ、かかりつけ医を受診したり、往診していただいたりしている。また、職員が散髪させていただいたり、併設のデイサービスのハード(マッサージ機)を使用する事もある。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			ユニット2 実践状況	実践状況	実践状況
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の婦人会の方、市内の演奏家やボランティアのご協力を頂いている。何より、ご家族との繋がりを大切にするように努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者様やご家族の意向を踏まえ、かかりつけ医への受診を継続している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員に相談しながら、日々のケアや健康管理に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には同行し、身体状況の報告や服薬状況の連絡、荷物の運搬を支援している。入院中は定期的に訪問し様子をお聞きしている。また、退院に向けて医療機関との連携を図り、受け入れ体制を整えるように努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に書面にて意向をお聞きするよにしているが、随時状況に応じて利用者様、ご家族、医師との話し合いの場を持ち、何ができるか検討している。方針は職員全員が周知情報がわかるように記録に残すようにしている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	医師や消防署員より知識や技術を学ぶ機会を設けている。個別に予測できる事態については医師やご家族と話し合いを持つようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時の避難訓練を定期的に行っている。津波避難支援マップを新しく職員全員が見えるように張り出している。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			ユニット2 実践状況	実践状況	実践状況
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉かけには常に注意している。記録の際にも敬う気持ちをもって記載している。会議等の場においても、尊敬の念をもって会話している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	能力に合わせた言葉かけや説明を行い、納得した上で行動できるように支援している。強制する事なく、待つ事も大切にしよう働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々のレクリエーションにおいても、強制はせず、個々の生活ペースを重視している。食事時間の配慮や気分転換の散歩や外出にも留意している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	希望や要望に沿って、買い物に同行したり、代行したり、お化粧を手伝ったり、散髪をしたり対応している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	日々の準備や肩付け、簡単な調理と一緒にしている。週1回の食事作りでは、献立を皆で考え、栄養バランス、季節感を考慮したメニューづくりに努めている。買い物、調理にも協力して頂いている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量は毎回記録し、体重測定を月1回は実施している。食事がすすまない時には補食の提供も行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の歯磨き、口腔ケアを実施している。義歯の洗浄にも留意している。歯ブラシ、スポンジ、等を使用し定期的に交換している。口腔内痰の吸引も実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			ユニット2 実践状況	実践状況	実践状況
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	尿意の訴えが困難な方でも定期的にトイレに座って頂けるよう支援している。気持ちよく排泄し、清潔保持できるよう留意している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	十分な水分摂取や牛乳の摂取をすすめたり、体操、腹部マッサージ等を行っている。排便状況を記録し、便秘がちな時には医師に相談している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	毎日入浴できるようにしている。個々のペースやタイミングに合わせてお誘いするようにしている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	消灯時間は設けているが、それぞれの時間を尊重している。眠れない時には声をかけたり、飲み物をお出ししたりして見守っている。昼間でも、休息をとって頂いたり体調にあわせて支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方された内服薬等の内容を把握し、正しく服薬できるように支援している。内服薬はその都度服薬確認をし、誤薬がないように注意している。体調に変化に応じて医師に報告し確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	それぞれの居場所ができるよう、能力にあわせて役割を持って頂くように支援している。洗濯をたたく、掃除をする、絵を描いて頂く等、得意な事を継続して支援している。散歩や買い物、ドライブで気分転換が図れるようにしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	阿波踊り見物やドライブ、買い物にでかけている。また、家族と美容院や外出等行なった方もあった。スムーズにでかけられるよう身支度や準備等のお手伝い、歩行困難な方には、歩行器をすすめ、購入したケースがあった。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			ユニット2 実践状況	実践状況	実践状況
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	能力により、ご家族との話し合いを行った上で、ご自身でお金を所持して頂く場合がある。外出の際には支払いがご自身で出来るように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	詰所の電話を使用して頂いている。また、手紙を書くことができるように声かけを行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	フロアや廊下に花を活けたり、利用者様の作品を展示したりして、明るい雰囲気作りに努めている。テレビの音量や温度管理にも留意し細目に確認している。照明のみならず、採光にも配慮し眩しくないようにしている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者様がそれぞれに落ち着いて過ごせるよう、座る場所や周辺環境を整え、机やいすの配置を工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	できる限り、使い慣れた物を持ってきて頂くようにしている。好みや生活にあわせて、居室内の配置も相談している。また、身体状況に合わせて随時模様替えをそたり、環境整備に努めている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	段差のない構造であり、随所に手すりを設置している。心身の状態に合わせてベッドや家具を移動したり、ベッド脇にマットレスを敷いたりして工夫し、安全な環境作りを心がけている。		